

2026

第 44 回宮城県中学校長会研究協議会

北部大会

期日：令和 8 年 10 月 7 日（水）

会場：パレットふるしんホール（大崎生涯学習センター）



大崎の田園にかかる虹



伊豆沼・内沼のはす



蕪栗沼のねぐら立ち

目 次

大会要項	1
挨拶	3
・大会会長	宮城県中学校長会長 千坂 佳織
・大会実行委員長	北部管内中学校長会副会長 菅原 健志
研究発表	5
【大河原地区】	
発表題：学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」と「働き方改革の実現」 ーこれまでの取組から見えてきた現状と今後のよりよい学校経営に向けてー	
記念講演	9
研究協議会の歩み	11
大会役員名簿	16

第 4 4 回 宮城県中学校長会研究協議会北部大会要項

■期 日	令和 8 年 10 月 7 日（水）
■会 場	パレットふるしんホール（大崎生涯学習センター）
■主 催	宮城県中学校長会
■主 管	北部地区中学校長会
■後 援	大崎市教育委員会 栗原市教育委員会 加美町教育委員会 色麻町教育委員会 涌谷町教育委員会 美里町教育委員会

1 研究主題 「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」

2 開催趣旨

今、我が国は、将来の予測が困難な激動の時代にある。また、少子高齢化、国際情勢の変化やグローバル化の進展など、社会課題も山積している。

このような中、社会の礎であり、その発展の原動力である教育の果たす役割は益々大きくなっている。令和 5 年に出された第 4 期教育振興計画は、2040 年以降の社会を見据え、「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げている。

私たち中学校長は、人間尊重の精神に徹しつつ、生徒一人一人に「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、生徒・保護者・地域住民の信頼と期待に応えるためのリーダーシップを発揮し、「学校における働き方改革」の実現を含め、「学校からの教育改革」を自らの責務として力強く学校経営を進めていかなければならない。

こうしたことを踏まえ、本大会では研究主題を「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」とし、学校経営の更なる充実と学校現場からの教育改革に努め、本県の中学校教育の一層の充実と更なる発展を期するものである。

3 日 程

12:30 13:00 13:20 13:30 14:10 14:30 15:50 16:00

受 付	開会行事	準備	研究協議(40)	準備 移動	記念講演(80)	閉会 行事
-----	------	----	----------	----------	----------	----------

【開会行事】

- (1) 開 会 宣 言 大会実行委員長 菅 原 健 志
 (2) 挨 拶 大 会 会 長 (宮城県中学校長会長) 千 坂 佳 織
 (3) 祝 辞 大 崎 市 長 中 島 源 陽 様
 (4) 来賓等紹介 大 会 副 会 長 (東部地区中学校長会長) 福 田 光 一
 (5) 諸 連 絡

【研究協議】

- (1) 発表者、司会者、記録者の紹介
 (2) 研究発表・協議

(発表地区)	発 表 題		
	学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」と「働き方改革の実現」 － これまでの取組から見てきた現状と今後のよりよい学校経営に向けて －		
	大 河 原	発表者	司会者
	七ヶ宿町立七ヶ宿中学校	村田町立村田第一中学校	白石市立小原小・中学校
	佐 藤 徳 之	菅 原 英 二	中津川 康 明

【記念講演】

- (1) 講 師 紹 介 大会副実行委員長 後 藤 玄
 (2) 講 演
 演 題 「星にはせる夢～大崎生涯学習センターにおける天体学習支援～」
 講 師 大崎地域広域行政事務組合教育委員会事務局総務課 生涯学習専門員
 遊 佐 徹 氏

【閉会行事】

- (1) 閉会の挨拶 大会副会長 (大河原 (次期開催) 地区中学校長会長) 石 川 裕 之
 (2) 閉 会 宣 言 大会副実行委員長 (北部地区中学校長会長) 村 上 卓
 (3) 諸 連 絡

大会会長挨拶

宮城県中学校長会
会長 千坂 佳織

朝夕の風に秋の気配が感じられ、木々の葉も少しずつ色づき始める頃となりました。錦織りなす鳴子峡の紅葉もまもなく見頃を迎えます。

さて、本日ここに、第44回宮城県中学校長会研究協議会北部大会を、大崎の地において、会員の皆様にお集まりいただき開催できますことを大変嬉しく思います。

昭和22年に新制中学校が発足して以来、宮城県の中学校教育は、時代の変化と社会の要請に応えながら、80年という長い歩みを重ねてきました。その歩みを振り返ると、教育を取り巻く環境や子供たちの姿は大きく変わってきましたが、よりよい教育を求め、実践を語り合い、互いに学び合う教師の営みは、脈々と受け継がれてきました。本研究協議会もまた、その営みを支えてきた大切な場の一つであると考えております。

コロナ禍という未曾有の困難に直面した際にも、私たちは紙上発表やハイブリッド方式など、その時々可能な方法を模索しながら、研究と交流の灯を絶やすことなく歩みをつないできました。そして今、こうして同じ会場に集い、顔を合わせて語り合えることに、改めてこの研究協議会の価値を感じております。

本大会の研究主題は、「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手を育てる中学校教育」です。本大会は一昨年度から半日開催、そして昨年度から発表地区を一地区に絞って協議をより深めることを主眼として行ってきました。地域とつながり、教職員がそれぞれの力を生かしてチームとして子供たちを支えることは、教育の質を高めるとともに、持続可能な学校をつくる上でも重要な視点です。まさに、本日の発表は時宜を得た内容です。各校の実践と重ねながら、これからの学校経営について活発な協議が展開されることを期待しております。

講演では、大崎生涯学習センターの遊佐徹様から、「星にはせる夢～大崎生涯学習センターにおける天体学習支援～」と題してお話をいただきます。未知の世界に心を開ける子供たちの好奇心や夢を、学校や地域がどのように支えていくのか。豊かな学びを考える貴重な機会になるものと期待しております。

80年に及ぶ宮城県の中学校教育。その歩みの先に立つ私たちは、先人から受け継いだ教育への思いを大切にしながら、変化の時代にしなやかに応えていかなければなりません。本日の出会いと語らいが、明日の学校教育への新たな気付きとなり、次の時代へ歩みをつなぐ一日となりますことを願っております。

結びに、本大会の開催にあたり企画・準備・運営に御尽力いただきました北部地区校長会の皆様、発表を御担当いただきます大河原地区中学校長会の皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。また、格別の支援と御協力を賜りました、宮城県教育委員会、大崎市教育委員会、栗原市教育委員会、加美町教育委員会、色麻町教育委員会、涌谷町教育委員会、美里町教育委員会、各関係機関の皆様にも重ねて御礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

開催にあたって

北部大会実行委員会
委員長 菅原 健志

「宝の都（くに）」大崎市、「市民が創る くらしたい」栗原市、「美しい自然、こころやさしい人々、活力ある生活文化のまち」加美町、「カップのふるさと」色麻町、「元氣わくや 黄金郷 - 人間力かがやく」涌谷町、「人つどい、共に築く、幸せと豊かさを実感できる」美里町。北部地区は、以上の2市4町からなっています。

宮城県中学校長会の皆様、ようこそ大崎市へ。

そろそろ稲刈りの時期を迎える頃となりました。ここ大崎市の稲作等の農業を支えてきたのが、世界農業遺産「大崎耕土」。「大崎耕土」は、厳しい自然環境下で食料と生計を維持するため、「水」の調整に様々な知恵や工夫を重ね発展してきた大地です。すばらしい自然と「大崎耕土」による農業の発展が、大崎地域を豊かにしてきました。

さて、この度、第44回宮城県中学校長会研究協議会を北部地区で開催できますことは、私たち当地区中学校長会にとりまして大きな喜びです。前回の北部地区大会は、令和5年に栗原市において行いました。その時は、4年ぶりの完全参集型開催であり、やっと新型コロナウイルス感染症拡大の心配から少し抜け出せた時期でした。

それからの3年間は、それまで以上に「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」や「学びの質の向上と教職員の負担軽減に向けたGIGAスクール構想の更なる推進」などが学校現場に求められました。また、「コミュニティ・スクール導入の加速化」「部活動の地域展開の推進」「高校無償化」「学校給食費の負担軽減」のほか、「給特法の改正」もありました。

そして、先般、次期学習指導要領の骨格案が示されました。主な方針の一つが「情報教育の拡充」です。人工知能（AI）の活用も初めて明記されます。これからの学校現場では生成AIをどこまで、どのように使うかが切実な問題となるのは明らかです。聞けばいくらでも答えを返してくれるAI。しかし、AIは何を問うべきかは教えてくれません。研究主題にもある「社会の創り手の育成」とは、正に「疑問を持ち、問いを立てることができる」生徒を育成していくことに他ならないと思います。

このようなことを考えていると、私は「大崎耕土」をイメージします。生徒一人一人という「稲」を、私たち学校現場という「耕土」、そして教職員一人一人という「水」が健やかに育てていくことと同じように感じます。校長は、そのような学校現場を創っていきたいものだと思います。大河原地区の発表と研究協議は、その道標になるでしょう。

北部地区中学校長会では、本研究協議会が会員の皆様の期待に応えられるように準備を進めてまいりました。しかしながら、不行き届きな面も多々あるのではないかと案じております。何とぞ会員の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたって御支援・御協力をいただきました大崎市長様をはじめ、大崎市、栗原市、加美町、色麻町、涌谷町、美里町の教育委員会の皆様、関係機関の皆様、県中学校長会長様をはじめ役員の皆様、さらには、発表いただく大河原地区の皆様にご心より感謝申し上げます、実行委員長の挨拶といたします。

学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」と「働き方改革の実現」

— これまでの取組から見えてきた現状と今後のよりよい学校経営に向けて —

宮城県七ヶ宿町立七ヶ宿中学校長

佐藤 徳之

I はじめに

中学校教員の長時間労働は、他校種と比較しても深刻であり、心身の健康を損なうだけでなく、教育の質の低下にもつながりかねない。また、少子高齢化にともない複雑化する社会状況を背景に子供たちの抱える課題も多様化しており、学校教育だけの対応には限界がある。こうした状況を踏まえ、学校と教員以外の専門職や地域社会が連携・協働し、「チーム学校」として一体的に取り組むことで、課題解決を図る必要性が高まっている。専門職や地域人材の活用は、教員の負担軽減に繋がり、子供と向き合う時間の確保を可能にする。さらに、地域社会の教育力を活用することで、子供たちの学びの機会の拡充や体験活動により、社会性やコミュニケーション能力など非認知能力の育成が期待できる。

本研究では、「チーム学校」と「働き方改革」を一体的に捉え、管内各中学校における教員以外の専門職や地域との連携・協働、教員の業務の効率化などの状況を明らかにし、事例を共有することで自校の実践・学校経営に役立て、働き方改革の推進を加速したいと考え、主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究のねらい

各校の「働き方改革の推進」に関する実態調査を行い、管内各校の現状把握と課題の集約を図ると共に、取組事例の共有により各校の実践に生かす。

2 調査対象

宮城県大河原地区中学校 21校

3 研究計画

(1) 1年次（令和6年度）

- ・方向性確認、研究主題・研究全体構想決定
- ・R3～R5研究の実態調査結果から比較、変容につながる調査内容の検討

(2) 2年次（令和7年度）

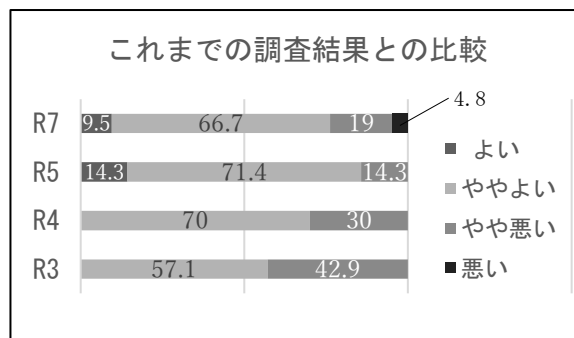
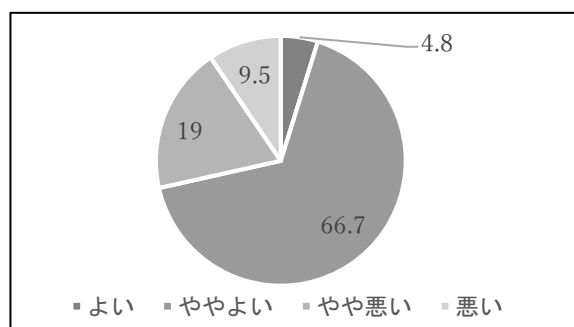
- ・実態調査の実施と結果から現状把握と好事例の収集、課題の集約と共有

(3) 3年次（令和8年度）

- ・東北中学校長会秋田研究発表
- ・県中学校長会研究協議会北部大会発表
- ・働き方改革を推進するための提言の共有と次年度の方向性の提案

4 研究の実際（実態調査結果の分析と考察）

(1) 【校長対象】あなたの学校における教員の「働き方改革の推進」の状況について、次の4段階のうちどれにあてはまるか回答してください。

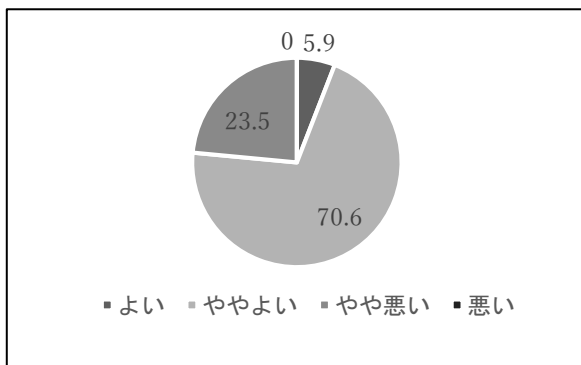


《分析》働き方改革推進の取組の進捗にばらつきが見られる。71.5% (21校中15校) と多

くの校長が働き方改革の成果を自覚しているが、不十分であると捉えている校長もいる。また、R 3～R 5に行われた調査結果との比較では、R 7で「やや悪い」「悪い」の回答割合が上昇したことから、校長によって評価規準が異なることがうかがえる。

《考察》R 5までに取組の成果が見えてきたところではあるが、次のフェーズ（部活動の地域展開、生成A Iの活用等）の整備や校務D Xの推進などの業務改善・効率化に継続して取り組む中で、学校課題の解決、教員の意識改革や合意形成、職場環境整備などにおいて、手応えと難しさを実感しているものと考ええる。

(2)【校長対象】あなたの学校における地域との連携・協働による「チーム学校」としての取組について、次の4段階のうちどれにあてはまるか回答してください。



《分析》多くの学校が機能していると答える一方で、連携の質や負担の増大に関する懸念も見られる。76.5%（21校中16校）と多くの学校が教育活動に外部人材を活用している。また、行政のサポートにより教員の業務の負担が軽減されている。

一方で、担当教員が外部人材との打合せや計画までも担っており、負担感があるとの回答が見られる。

《考察》機能している学校は、内容等の打合せや日程調整など行政のサポートが充実している。一方で、学校だけでは、連携そのものの運営に課題もあり、教職員の負担が大きい。

(3)【校長対象・記述】あなたの学校における

地域との連携・協働による取組の中で働き方改革につながっていることについて教えてください。

「しばたっ子応援団（学校支援ボランティア）及びコーディネーターに職場体験、キャリアセミナーなどの総合的な学習の時間や学校行事などのサポートをいただいている。外部との連絡調整・準備などはほぼ全て行ってもらい、時間の削減につながっている。」

「ゲストティーチャーなどの選定において学校のニーズに応じて学校運営協議会及び公民館が相談にのってくれることが多く助かる。」

「町役場の担当部署に問い合わせたり、地域おこし協力隊に相談することで、探究的な学びや体験的課題解決学習に沿った出前授業の展開が可能となっている。」

(4)【校長対象・記述】あなたの学校における地域との連携・協働による取組の中で、負担が大きかったり、業務量（時間）が増えてしまったりする傾向にあることがありましたら教えてください。

「地域連携担当者が変わると、見通しを持てず負担が大きくなっているが、それ以外は継続している活動が多いため負担はそれほどでもない。」

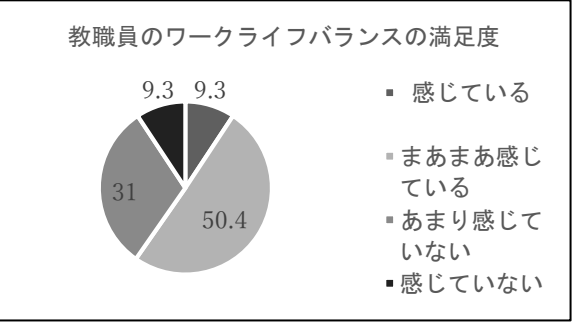
「地域と連携する際に、学校だけで新たな取組を企画・運営していくのに大きな負担を感じる。しかし、一度経験することで見通しができ、持続可能となるような記録を引き継ぐことが重要である。」

「学校運営協議会は、学校が主体になってしまい準備や活動が業務量の増加になっていると考える。協議会そのものがどのような運営をするべきかを共有する必要がある。」

「部活動地域展開においては、地域が求めている部活動の在り方や地域環境といった要素が大きく難しいと感じる。スポーツ少年団や親の会として部活動以外に練習を組み入れているが、持続可能とは言えない。」

(5)【教職員対象】現在、ワークライフバラ

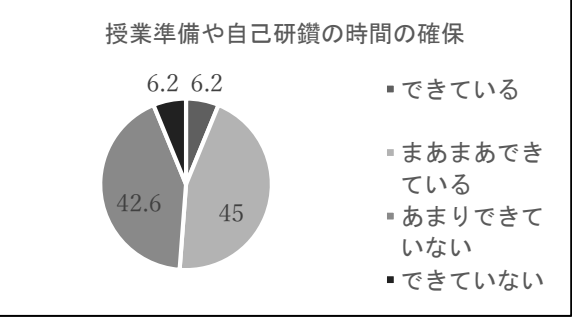
ンス（仕事と私生活の両立）は十分と感じますか。4つの中から選んで回答してください。



《分析》のワークライフバランスの満足度は、満足と肯定的に感じている教員が6割と多いが、満足と感じていない割合と満足と感じている割合は同じである。

《考察》年代や個人の業務についても差があると捉えるが、働き方改革の推進が教員の意識として浸透していることがうかがえる。

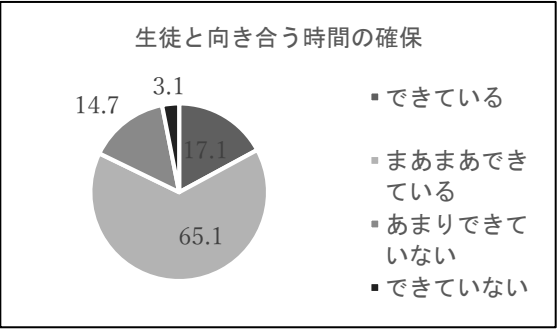
(6)【教職員対象】日々の授業について、授業の準備や自己研鑽の時間が確保されていますか。4つの中から選んで回答してください。



《分析》教員の授業準備や自己研鑽の時間が確保されている割合については、ほぼ半数である。

《考察》(6)の結果から、ワークライフバランスの満足度と授業準備や自己研鑽の時間との関係は必ずしも一致しないが、満足度が高くなるにつれて一定の時間が確保できることを期待する。

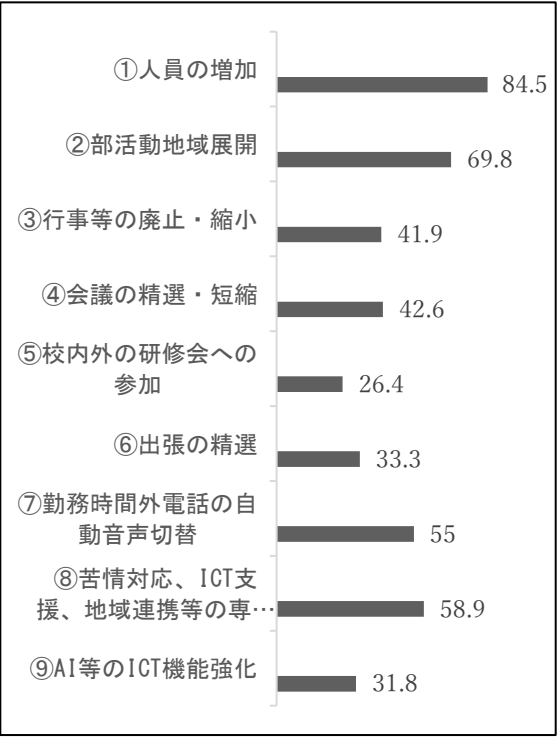
(7)【教職員対象】日々の授業をはじめ教育活動において、生徒と向き合う時間が確保できていますか。4つの中から選んで回答してください。



《分析》生徒と向き合うの時間が確保できている教員の割合は高い。

《考察》(6)(7)の結果から、ワークライフバランスの満足度、授業準備や自己研鑽の時間の確保が保障されることで、生徒と向き合う時間が確保されることにつながると考える。一方で、確保されていない教員の要望や環境を受け止め、意識改革や業務改善に努める必要がある。

(8)【教職員対象】自身について「公立学校の勤務時間の上限に関するガイドライン」を守りつつ、上記(6)や(7)の質問にある時間を確保するためには、どのようなことが必要だと思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。



《分析》①人員の増加 ②部活地域展開

⑧苦情対応、ICT支援、地域連携等の専門職員 の選択が多く、⑤校内外への研修会での参加 ⑨AI等のICTの機能強化 ⑥出張の精選 においては必要感は低い。

《考察》上位三つの項目は、全てマンパワーに係るものである。「学校と教師の業務の三分類」に照らし合わせた業務改善の更なる見直しを図る必要がある。

R3～R5までの取組に関する研究から、働き方改革の効果的な取組例は、どの学校でも実施されているものとなった（部活動の体制と下校時刻の繰り上げ、ペーパーレス化、留守番電話の設定、余剰時数の削減、校務処理のデータ化等）。しかし、各校における取組の程度には差が生じている。

先進地区の取組を参考に市町教育委員会のリーダーシップの下、予算を含めた環境整備等、連携しながら前進する必要がある。

Ⅲ 研究の成果と課題

調査結果からは、各校が働き方改革と地域との連携・協働に積極的に取り組む一方で、その進捗の度合いや効果には、大きな差があることが明らかになった。各校の実態から分かったことと今後の方向性について、以下5つの点にまとめた。

ア 校務DXによる業務効率化の推進

多くの学校で効果が実感されている、または取組の途上で更なる展開が期待される。

→ ICT環境の改善と活用推進のための研修会の提供が求められる。

イ 部活動の負担軽減と地域展開

白石市、角田市を中心に取組が進んでいるが、地域の受け皿や教員の意識改革も含めて今後の課題である。

→ 地域の実情を探りながら、地域展開に向けた具体的なロードマップの策定と地域住民・団体との協力体制の強化が必要である。

ウ 地域連携による外部人材・機関の活用

柴田町のように職場体験学習やキャリア教育を中心に成果を上げている一方で、多くの学校は調整や準備の負担を軽減する仕組みが必要である。

→ 地域連携コーディネーターの配置や、連携活動に伴う教員の負担を軽減するサポート体制の確立を行政や自治体と連携・構築したい。

エ 教員の意識改革と職場環境の整備

働き方改革を推進する上で、教職員全体の意識向上と安心して働ける環境づくりが不可欠である。

→ 行政のリーダーシップの下、働き方改革のための具体的目標設定と、進捗状況の定期的な共有、および教職員間の合意形成を促すための対話の場の設定を校長として推進したい。

オ 行政・財政支援の重要性

働き方改革や地域連携を進める上で、教育委員会や自治体による具体的な施策や財政支援が強く求められる。

→ 教育委員会や自治体との連携を強化し、財政的・人的支援の確保と、今後、蔵王町・村田町・川崎町のように学校再編・統合の大きな方針変更・新たな制度設計に加えて働き方改革の連続性を検討していくことが求められる。

Ⅳ おわりに

「チーム学校」の推進と働き方改革には、行政の具体的な支援や地域との連携が不可欠であることが明らかである。取組の進捗には各校で差があり、調整業務等の新たな負担も課題ではあるが、校務DXの推進や地域連携コーディネーターの活用等について、学校間で情報を共有しながら進めていきたい。

教員が子供と向き合う時間を確保し、教育の質を向上させる持続可能な学校経営の実現はどの校長にも課せられている責務である。

星にはせる夢

～ 大崎生涯学習センターにおける天体学習支援 ～

【講師】大崎地域広域行政事務組合教育委員会
大崎生涯学習センター 生涯学習専門員

遊 佐 徹 氏



《プロフィール》

昭和41年3月 登米市米山町生まれ
宮城県佐沼高等学校、東北学院大学経済学部卒業、同大学院中退
平成元年 遠田郡田尻町立田尻中学校教諭
平成8年 遠田郡涌谷町立笹岳中学校教諭
平成10年 大崎生涯学習センター勤務、主にプラネタリウム事業に従事
令和2年 大崎地域広域行政事務組合教育委員会教育次長 兼
大崎生涯学習センター長就任
令和8年 現職

小学4年生の時に、ウェスト彗星がきっかけで星空に興味を持ち始める。中学3年生の夏、ペルセウス座流星群の極大を契機に星空を見上げ始める。高校時代は彗星発見を夢見て、夜な夜な星探し。大学時代は仙台市天文台に通い詰め、当時の天文台長・小坂由須人氏の薫陶を受け、彗星の光度観測や精密位置観測に没頭した。

子供たちに星空を見せたいと志し、中学校教員を経て、現所属の職員に転身。通常のプラネタリウム投影のほか、「熟睡プラ寝タリウム」「おやじのための天体観測」「だじゃれタリウム」等、ユニークな企画イベントを行い、星空や宇宙を身近に感じてもらえるように取り組んできた。近年は、人の繋がりを改めて大切にしていこうと、後進育成や天文ボランティア育成に注力している。

天体観測と新天体確認観測のエキスパートである。2010年に、さんかく座銀河M33に16等の新星(M33N 2010-12a)を発見。翌年にはアンドロメダ銀河M31に18等の新星(M31N 2011-01a)を発見した。小惑星(9108)は「Toruyusa」と命名されるなど、学術界においても多くの功績を挙げている。

趣味は、天体観測のほか野鳥観察、自然探索、園芸。好きな言葉は「星・ひと・笑顔」。

〔所属団体〕 おおさき星の会、仙台天文同好会、彗星会議運営委員会、彗星観測団体「星の広場」、日本星景写真協会、日本だじゃれ活用協会

〔X(旧Twitter)〕 遊佐徹(@T_Yusa)

[illegible]

研究協議会の歩み

第1回 昭和49年 古川市民会館

- | | | |
|--|--------|-------|
| (1) ゆとりある教育課程 | 仙台・第一中 | 吉田 常一 |
| (2) 望ましい運動部活動の在り方 | 北 上 中 | 遠藤信一郎 |
| (3) 変動する地域社会の実態に即した学校経営
～「家庭教育のしおり」の作成を通して～ | 西小野田中 | 白井 清源 |

第2回 昭和50年 角田市民センター

- | | | |
|---|--------|-------|
| (1) ゆとりある教育課程 | 仙台・第一中 | 吉田 常一 |
| (2) 中学校教育と家庭教育との連携について
～「家庭教育のしおり」の作成を通して～ | 賀美石中 | 星 二郎 |
| (3) 登米地区教育研究所の構想について | 錦 織 中 | 須藤 俊夫 |

第3回 昭和52年 矢本第二中学校

- | | | |
|-----------------------------|-------|-------|
| (1) 学習塾に関する父母・教師の意識について | 岩 沼 中 | 熱海畔四郎 |
| (2) 学校教育と家庭教育との連携（実践活動を中心に） | 金 成 中 | 高橋喜四郎 |
| (3) 新しい学校経営を目指して | 西多賀中 | 三塚 清彦 |
| (4) 魅力に対する生徒と教師の傾向調査とその分析 | 須 江 中 | 阿 部 宏 |

第4回 昭和54年 亶理中央公民館

- | | | |
|---|-------|-------|
| (1) 移行期における学校経営の諸問題
～昭和53年・54年の歩みの中から～ | 唐 桑 中 | 小野寺昭一 |
| (2) 創意に満ちた学校経営の展開 | 西 根 中 | 橋 本 進 |
| (3) ゆとりある充実した中学校経営を目指して | 松 山 中 | 清原 通雄 |
| (4) ゆとりある充実した中学校経営
～地域社会の課題と中学校の役割～ | 東 和 中 | 片倉 敏雄 |

第5回 昭和55年 若柳中学校

- | | | |
|-----------------------|---------|-------|
| (1) 昭和56年度教育課程編成上の諸問題 | 岩 沼 北 中 | 松本 千秋 |
| (2) 新教育課程編成上の諸問題 | 小 竹 中 | 星野 郁夫 |
| (3) 新教育課程実施上の諸問題 | 金 成 中 | 村岡 祐喜 |
| (4) 新教育課程編成に関する問題点 | 三 条 中 | 及川 隆夫 |

第6回 昭和56年 中田町立中田中学校

- | | | |
|--|---------|-------|
| (1) 教育課程実施上の諸問題の解明
「創意に満ちた学校経営の展開～ゆとりの時間の生かし方～」 | 白 石 南 中 | 佐 藤 信 |
| (2) ゆとりの時間の運営の工夫
～「創意の時間」を中心として～ | 南 郷 中 | 菅原 康夫 |
| (3) 地域教育の課題と中学校の役割
～進路指導における組織運営の在り方をめぐって～ | 石 越 中 | 菅原 伸 |
| (4) 中学校における生徒指導の充実をめざして | 月 立 中 | 大森 昭仁 |

第7回 昭和57年 気仙沼市民会館

- | | | |
|----------------------|---------|-------|
| (1) 教育課程の運営管理に関する諸問題 | 将 監 東 中 | 多 田 滋 |
| (2) 生徒指導上の諸問題 | 仙台・中田中 | 猪 俣 久 |
| (3) 教育課程実施の状況と諸問題の解明 | 大 原 中 | 千葉 俊一 |

第8回 昭和59年 女川生涯学習センター

- | | | |
|---------------------------------|-------|-------|
| (1) 教育課程実施上の諸問題
～教科指導を通して～ | 一 迫 中 | 佐藤 典人 |
| (2) 生徒指導における協力・連携の在り方を求めて | 豊 里 中 | 堀内 守正 |
| (3) 教育課程解決に迫る校長のリーダーシップはどうあるべきか | 月 立 中 | 山川隆太郎 |

第9回 昭和60年 ホテル白萩

- | | | |
|--|-------|-------|
| (1) 生徒指導上の諸問題と対策
～問題行動をもつ生徒の指導を通して～ | 七 郷 中 | 佐取 昭義 |
| (2) 教育課程実施上に伴う運営上の諸問題の解明
～学校教育目標具現化のための対策～ | 金ヶ瀬中 | 佐藤 信大 |
| (3) 学校運営上の諸問題とその対策
～教職員のモラルと教育力を高める方策とその実施～ | 南光台東中 | 今野 定亮 |

第10回 昭和61年 白石市中央公民館

- (1) 健全育成をめざす生徒指導の充実と対策…………… 鬼 首 中 君ヶ袋正昭
 (2) 中学校における道德教育の現状とその充実…………… 新 田 中 及川 健三
 (3) 教育課程解決に迫る校長のリーダーシップはどうあるべきか…………… 唐 桑 中 菅原 俊彦

第11回 昭和62年 多賀城市文化センター

- (1) 中学校における道德教育の充実を日指して
 ～現状と対策～…………… 荻 浜 中 庄 司 隆
 (2) 学校経営上の諸問題に対する調査
 ～生徒心得の現状と意義について～…………… 船 迫 中 穴 戸 孝
 (3) 教育課程運営上の諸問題
 ～生き方指導の充実をめざす進路指導～…………… 愛 宕 中 半 澤 健

第12回 昭和63年 古川市芙蓉閣

- (1) 学校経営上の諸問題と対策
 ～主体的経営参加を進める現職教育～…………… 色 麻 中 木村 強一
 (2) 健全育成を目指した生徒指導の充実
 ～生徒の開題行動と学校(校長)としての対策～…………… 名取・第二中 岩淵昌次郎
 (3) 教育課程運営上の諸問題
 ～望ましい運動部活動の在り方～…………… 金 成 中 菅 原 學

第13回 平成2年 築館町農村改善センター

- (1) 心豊かな人間の育成を図る学校経営
 ～こころの教育と学校経営～…………… 袋 原 中 鶏徳 喜昇
 (2) 教育課程実施に向けての諸条件の整備はどうあったらよいか…………… 松 岩 中 太布 善彦
 (3) 健全育成を目指す生徒指導
 ～登校拒否生徒の指導を通して～…………… 石 越 中 渡邊 政雄

第14回 平成3年 迫公民館

- (1) 教員の資質向上と教員養成
 ～人的条件の現状と課題について～…………… 玉 川 中 青木 寛敏
 (2) 地域社会に開かれた学校教育の創造…………… 古 川 中 只野 龍馬
 (3) 新教育課程編成・実施上の諸問題…………… 高 清 水 中 狩野 忠志

第15回 平成4年 気仙沼市中央公民館・気仙沼市勤労青少年センター

- (1) 心豊かな人間の育成を図る学校経営
 ～心の教育と学校経営の改善～…………… 根 白 石 中 早坂 春一
 (2) 新教育課程編成・実施上の諸問題…………… 荻 浜 中 平塚 政和
 (3) 教職員の資質の向上と校内研修…………… 遠 刈 田 中 佐藤 茂伸

第16回 平成5年 矢本コミュニティセンター

- (1) 活力に満ちた学校経営
 ～全職員の経営参加を目指して～…………… 豊 里 中 渡邊 全恵
 (2) 地域社会に開かれた学校教育の構造…………… 一 栗 中 佐々 敦
 (3) 新教育課程編成・実施上の諸問題…………… 日 吉 台 中 高橋 正義

第17回 平成6年 仙台市青年文化センター

- (1) 教育諸条件整備はどうあったらよいか…………… 条 南 中 千葉 靖哉
 (2) 活力に満ちた学校の条件について…………… 栗 駒 中 佐藤 睦夫
 (3) 教員の資質向上を目指して…………… 宮 中 佐々 武弘
 (4) 進路指導の充実について…………… 加 茂 中 北村 英廣

第18回 平成8年 柴田町槻木文化センター

- (1) 学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる中学校の条件整備…………… 塩竈・第二中 大場 尚文
 (2) 活力に満ちた学校経営を目指して…………… 色 麻 中 斎藤 義憲
 (3) 個性の伸長を図る進路指導…………… 荻 浜 中 武田 政春

第19回 平成9年 岩沼市公民館・総合体育館

- (1) 教職員の資質能力の向上を図る研修の在り方…………… 桜 丘 中 千田 彰武
 (2) 心豊かな生徒を育てる道德教育の推進…………… 東 和 中 佐 藤 彰

- (3) 学ぶ意欲と主体的に生きる力を育てる条件整備
～学校における危機管理の在り方を通して～…………… 村田第二中 宮田 尚夫

第 20 回 平成 10 年 小牛田町文化会館・公民館・近代文学館

- (1) 豊かな心を育てる道德教育
～道德的実践を促進する指導の在り方～…………… 歌 津 中 大 場 勝
- (2) 豊かな心を育てる道德教育
～道德教育推進状況の意識調査を通して～…………… 一 迫 中 小野寺邦義
- (3) 豊かな心を育てる道德教育 …………… 塩竈・第二中 阿部 邦彦

第 21 回 平成 11 年 栗原文化会館

- (1) 特色ある学校と条件整備
～教職員の資質能力の向上を図る研修の在り方～…………… 沖 野 中 佐 藤 隆
- (2) 豊かな心を育てる道德教育の充実
～教職員及び生徒に対する道德指導の推進～…………… 松 山 中 遠藤 玲子
- (3) 豊かな心を育てる道德教育
～「心の教育」の充実を図る学校経営～…………… 渡 波 中 木村 民男

第 22 回 平成 12 年 迫町「登米祝祭劇場」(水の里ホール)

- (1) 教育改革を推進する『開かれた学校』づくり
～校長の意識調査をとおして～…………… 白 川 中 舟山 幸枝
- (2) 豊かな心を育てる道德教育の充実
～体験活動を通して～…………… 名取・第二中 島田 幸男
- (3) 豊かな学力を育てる学校の創造
～校長としての対策とその実践～…………… 歌 津 中 佐藤 貞一

第 23 回 平成 13 年 本吉町文化センター

- (1) 開かれた学校づくり
～推進のための条件整備～…………… 三 本 木 中 及森 三善
- (2) 「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむ教育
～地域の特色を活かした学校経営をめざして～…………… 志 波 姫 中 酒井 和男
- (3) 基礎的・基本的な内容の確実な定着と個に応じた指導の充実を図るための校長のかかわりかた
～教科等の指導計画の作成と授業改善をとおして～…………… 石 越 中 高 橋 健

第 24 回 平成 15 年 矢本コミュニティセンター

- (1) 豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育…………… 塩竈・第三中 武田 光彦
- (2) 生きる力をはぐくむ、地域に根ざした学校づくり
～「学校を開く」ことの意義と学校が進むべき方向性を探る～…………… 入 谷 中 鈴木 芳幸
- (3) 基礎的・基本的な内容の確実な定着と個に応じた指導の充実を図るための校長のかかわりかた
～教科等の指導計画の作成と授業改善をとおして…………… 登 米 中 蜂谷 徳芳

第 25 回 平成 16 年 仙台市メルパルク SENDAI

- (1) 教育課程の実施に係る経営上の諸問題
～「総合的な学習の時間」の取組を通して～…………… 石巻・山下中 宍 戸 勉
- (2) 評価を生かし、確かな学力を身に付けさせる学校経営…………… 色 麻 中 山中 晴夫
- (3) 開かれた学校づくりと地域社会
～第 3 年次学校評議員制度の実態調査から～…………… 丸 森 東 中 千 葉 純

第 26 回 平成 17 年 宮城蔵王ロイヤルホテル

- (1) 信頼される開かれた学校づくりを推進するに当たっての諸問題
～学校評価と情報提供の在り方～…………… 南 光 台 中 阿部 英仲
- (2) 勤労観、職業観を育てるキャリア教育の推進
～職場見学・職場体験学習の課題と今後の方向性を探る～…………… 栗 駒 中 門傳 忠實
- (3) 生徒一人一人の可能性を伸ばす評価の在り方…………… 入 谷 中 高橋 秀三

第 27 回 平成 18 年 ホテル白萩

- (1) 確かな学びを推進する指導の充実
～普通学級に在籍する「気になる生徒」への学びの支援に果たす校長の役割～…………… 豊 里 中 熊野 充利
- (2) 総合的な学習の一層の充実
～「総合的な学習の時間」と教科等の関連の重視にかかる調査から～…………… 荻 浜 中 原 吉 宏

- (3) 生きる力を育む指導と評価の充実
～「確かな学力の育成」へ向けた各学校における取組の状況から～……丸森東中 小野寺 薫

第28回 平成19年 大崎生涯学習センター(パレットおおさき)

- (1) 仙台市立中学校の「総合的な学習の時間」の実施状況
～平成17年度「総合的な学習の時間」の国立教育政策研究所の実施調査との比較から～……広瀬中 國井 恵子
- (2) 開かれた学校づくりを目指して
～平成16～18年度仙台管内中学校長会での調査を通して～……亘理・吉田中 阿部 清己
- (3) 学習状況調査結果の受止めとその活用……面瀬中 佐藤 亨

第29回 平成21年 栗原文化会館(アポロプラザ)

- (1) 「確かな学び」を保障する指導の充実をめざして
～大河原管内中学校長の意識調査の多面的な分析から～……丸森東中 高橋 教義
- (2) 創造的で特色ある教育課程の編成・実施の状況
～教育課程に関する調査結果の分析を通して～……鶴谷中 平 昇
- (3) 特別支援教育の推進体制の整備を目指して
～大崎地区中学校の実態調査の考察から～……田尻中 星 豪

第30回 平成22年 登米祝祭劇場(水の里ホール)

- (1) 「確かな学び」を保障する指導の充実
～学力向上に向けた各校の取組から～……花山中 半田 宏史
- (2) 教師力の向上を目指した研修の充実
～「学校を支える力」の向上を目指して～……飯野川中 遠藤 勝則
- (3) 教師力の向上を目指した研修の充実
～教師力・授業力向上に資する研究授業の在り方～……富谷第二中 本間 修

第31回 平成23年 南三陸ホテル観洋

- (1) 第1分科会
- ① 大地震発生直後の対応……栗駒中 氏家 光彦
 - ② 避難所としての立ち上げ……将監中 小川 彰
 - ③ 生徒の安否確認と学校からの情報発信……唐桑中 村上 徹也
- (2) 第2分科会
- ① 避難所の運営……北上中 畠山 卓也
 - ② 避難所運営から学校の教育活動への移行……新月中 小野寺有一
 - ③ 正常な教育活動に向けての工夫……古川東中 吉田 和子
- (3) 第3分科会
- ① 被災校の現在の状況……丸森東中 菊池 卓郎
 - ② 被災校への支援・避難所の運営……登米中 武田 和義
 - ③ 被災校の現在の状況・情報の管理と発信……閑上中 高橋 澄夫

第32回 平成24年 ホテル大観荘

- (1) 教師力の向上を目指した研修の充実を図る取り組み
～実践事例の考察を通して～……村田第二中 青田 穰
- (2) 創造性豊かで使命感に満ちた教職員の育成を目指して
～授業力向上に資する校内研修の在り方～……東向陽台中 吉川 隆行
- (3) これからの安全教育の在り方
～震災から見えてきたもの～……宮崎中 相澤 成信

第33回 平成26年 蔵王町ふるさと文化会館

- (1) 心身共に健やかな生徒を地域全体で育む教育の充実
～企業教育を通じた実践事例から～……栗駒中 伊藤富久男
- (2) 体力の向上や健康の保持増進を図る体育・スポーツ活動の充実
～各学校の特色を生かした取組を通して～……新田中 岩渕 幸市
- (3) 東日本大震災から学んだこと
～明日への提言～……本吉地区校長会研究部

第34回 平成27年 岩沼市民会館・中央公民館・岩沼市総合体育館

- (1) 健やかな心身を育成するための安全教育の在り方
～災害安全を中心とした取組を通して～……河南東中 山田 晴彦
- (2) 大河原地区の防災教育の充実……槻木中 永山 晋

- (3) 教師力の向上を目指した取組の充実
 ～学校を支える力を身に付けさせる具体的な施策～…………… みどり台中 鈴木 久直

平成 28 年 第 67 回全日本中学校長会研究協議会宮城大会（仙台サンプラザホール）

第 35 回 平成 29 年 大崎市岩出山文化会館（スコーレハウス）

- (1) 「確かな学力」の定着と向上を目指す学校経営
 ～校長のリーダーシップの在り方を通して～…………… 栗 駒 中 多 田 陽
- (2) 社会的・職業的自立のために必要な能力を育成する志教育の充実
 ～地区コーディネーターの活用の在り方を通して～…………… 南 方 中 岩 渕 幸市
- (3) 「志教育」の充実を図る学校経営
 ～本吉地区の実践～…………… 志 津 川 中 三 浦 馨

第 36 回 平成 30 年 登米市祝祭劇場（水の里ホール）

- (1) 「社会に開かれた教育課程」の編成・実施
 ～新たな地域連携を通して～…………… 鳴瀬未来中 伊東 毅浩
- (2) 確かな学力の育成を目指す学校経営
 ～「学力向上に向けた 5 つの提言」の実践の充実を通して～… 小 野 田 中 橋元 伸二
- (3) 不登校問題とその対応…………… 宮 中 樋 口 浩
- …………… 金ヶ瀬中 品川 信一

第 37 回 令和元年 気仙沼市はまなすの館

- (1) 次代の学校経営を担う人材の育成
 ～人事評価等各種施策の活用を通して…………… 逢 限 中 小野寺昭人
- (2) 確かな学力の育成を目指す学校経営
 ～「学力向上に向けた 5 つの提言」の実践の充実を通して～… 中 新 田 中 早坂 正紀

第 38 回 令和 2 年 （東部大会 ※誌上発表）

- (1) 「チーム学校」の実現を図る学校経営
 ～学校・家庭・地域の特色を生かした連携・協働を通して…………… 松 岩 中 三 浦 馨
- (2) 不登校問題とその対応
 ～子どもの心のケアハウスとの連携を通して…………… 宮 中 樋 口 浩

第 39 回 令和 3 年 （大河原大会 ※誌上発表）

- (1) より良い人間関係を構築し、自己実現を図るための自己指導能力を高める学校経営
 ～みやぎの志教育の 3 視点「かかわる」「はたす」「もとめる」を生かした教育活動の推進をととして…………… 成 田 中 小 山 直 樹
- (2) コミュニティ・スクールの在り方と校長の役割
 ～学校運営協議会の状況と実践事例の調査を通して…………… 東 和 中 千 葉 純子

第 40 回 令和 4 年 TKP ガーデンシティプレミアム仙台西口
 （第 72 回東北地区中学校長会研究協議会宮城大会を兼ねる）

- (1) 自己の生き方を豊かにする道德教育の充実
 ～質の高い教育活動の実践に向かう校長のリーダーシップの在り方…………… 志 波 姫 中 村 上 卓

第 41 回 令和 5 年 栗原文化会館（アポロプラザ）

- (1) 自らの生き方を主体的に探究する力を高める道德教育の推進…………… 鹿 折 中 亀谷 寿之
- …………… 新 月 中 宮崎 明雄
- (2) 人材育成・資質向上、働き方改革の推進…………… 船 岡 中 中 秀 司

第 42 回 令和 6 年 気仙沼中央公民館

- (1) よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実…………… 北 上 中 阿部 一彦
- (2) 次代の学校経営を担う人材の育成…………… みどり台中 高橋 睦子
- …………… 山 元 中 白 鳥 修

第 43 回 令和 7 年 マルホンまきあーとテラス

- (1) 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成
 ～教職員集団の総合力を高める校長の組織マネジメントの在り方…………… 色 麻 学 園 岩 渕 謙
- …………… 栗 駒 中 加藤 純一

第 44 回 令和 8 年 パレットふるしんホール

- (1) 学校と地域の連携・協働による「チームとしての学校」と「働き方改革の実現」
 ～これまでの取組から見えてきた現状と今後のよりよい学校経営に向けて…………… 七ヶ宿中 佐藤 徳之

第 44 回 宮城県中学校長会研究協議会北部大会役員名簿

◇大会会長 宮城県中学校長会会長 千坂 佳織（涌谷町立涌谷中学校）

◇大会副会長 次年度開催地区会長 石川 裕之（白石市立白石中学校）

前年度開催地区会長 福田 光一（石巻市立石巻中学校）

◇大会実行委員

	氏名	所属校	北部地区専門部
実行委員長 総務部(部長)	菅原 健志	栗原市立金成小中学校	地区副会長 総務部長
副実行委員長 総務部(副部長)	後藤 玄	大崎市立古川北中学校	地区副会長 総務部
副実行委員長 総務部	村上 卓	栗原市立築館中学校	地区会長・県副会長 総務部
副実行委員長 総務部	小野寺英一	加美町立中新田中学校	地区副会長(会長代行) 総務部
総務部(会計)	猪股 徳幸 青木 康子	大崎市立古川東中学校 大崎市立田尻中学校	事務局長 研究部
編集部(部長) (副部長)	後藤 正章 長田 智紀 水谷 岳男 武田 誠 築田 智志 黒田 健 渋谷 和彦	大崎市立古川中学校 栗原市立栗原南中学校 大崎市立古川南中学校 栗原市立若柳中学校 大崎市立鳴子小中学校 大崎市立松山中学校 色麻町立色麻学園	情報部長 行財政部長 情報部 情報部 行財政部 行財政部 行財政部
運営部(部長) (副部長)	佐藤 広章 加藤 純一 木村 徹之 日野 英信 及川 浩	大崎市立岩出山中学校 栗原市立栗駒中学校 大崎市立鹿島台中学校 加美町立鳴峰中学校 栗原市立志波姫中学校	研究部長 研究部 研究部 研究部 研究部
会場部(部長) (副部長)	佐藤 勇寿 皆川 司 鈴木 司 伊藤 重和	美里町立美里中学校 大崎市立古川西小中学校 栗原市立栗原西中学校 大崎市立三本木中学校	指導部長 指導部 指導部 指導部



第44回宮城県中学校長会研究協議会北部大会

発行日 令和8年10月7日（水）

発行者 宮城県中学校長会長 千坂 佳織

編集 北部大会実行委員会